

# テーブル・オフィシャルズの任務」の変更点の概略

※「スコアラー」、「アシスタント・スコアラー」の名称が、それぞれ「スコアキーパー」、「アシスタント・スコアキーパー」に変更された。

## 1. スコアキーパー

### (1) オルタネイティング・ポゼション・ルール

- ①第1ピリオド以外の、第2、第3、第4ピリオドと各延長時限の開始は、すべてオフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインのアウト・オブ・バウンズからのオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インを行うことになった。  
※後半から攻めるバスケットが変わるので、**前半(第2ピリオド)が終了したときにすみやかにポゼション・アローの向きを変え**、第3ピリオドを始めるときにオルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インのボールが与えられるチームが攻撃する方向を正しく示しておくようにする。
- ②第2、第3、第4ピリオドと各延長時限を始めるときに、ボールがスロー・インをするプレイヤーに与えられてからスロー・インされたボールがコート内のプレイヤーに触れるまでの間にファウルやヴァイオレイションが起こった場合は、そのファウルやヴァイオレイションはプレイのインタヴァル中ではなく競技時間中に起こったものとして処置することになった。  
※ファウルが宣せられた場合は、**ポゼション・アローの向きは変えない**。スロー・インをするチームに**ヴァイオレイション**が宣せられた場合には、オルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インは終わったことになるので、**ポゼション・アローの向きを変える**。

### (2) 交代/チャージド・タイム・アウト

- ①ヴァイオレイションのあとでも、どちらのチームにも交代が認められることになった。  
※ヴァイオレイションが宣せられたときも、ファウルが宣せられたときと同様に、**どちらのチームから交代の申し出があっても交代が認められる時機が終わる前に合図器具を鳴らして交代を知らせる**。
- ②フリースローの場合、チャージド・タイム・アウトや交代が認められる時機が終わるのが、「1投目のフリースロー・シューターにボールが与えられたとき」に変更された。  
※スコアキーパーは、「1投目のフリースロー・シューターにボールが与えられた」とは、交代やチャージド・タイム・アウトを知らせる**合図をしてはならない**。
- ③プレイのインタヴァル(ハーフタイムも含む)の間に交代するときも、交代要員はスコアキーパーに交代の申し出をしなければならないことになったが、**チャージド・タイム・アウト**やプレイの**インタヴァル**の間に交代の申し出があった場合は、スコアキーパーは、交代を知らせる**合図器具は鳴らさない**ことになった。  
※この場合、審判は交代の合図や交代要員を招く合図をしないし、交代要員がいったんコートに入る必要もなくなったので、スコアキーパーは、交代を申し出たプレイヤーの番号を覚えておく必要がある。  
※また、チャージド・タイム・アウトの前に交代の申し出があり、そののちチャージド・タイム・アウトが認められた場合は、審判がチャージド・タイム・アウトを認めたときに交代要員はプレイヤーとなり、プレイヤーは交代要員となる。
- ④どちらかのチームからチャージド・タイム・アウトが請求されていたときにファウルが宣せられた場合は、そのファウルの伝達が完全に終わってからでなければチャージド・タイム・アウトを知らせる合図をしてはならない。どのような場合でも、これらの手続きがすべて終わり、審判が笛を鳴らして定められたチャージド・タイム・アウトの合図(審判の合図12)を示したときから1分をはかり始めなければならない。

### (3) アンスポーツマンライク・ファウル

- ①合図器具を鳴らして審判に知らせる時機に、「1プレイヤーに2回目のアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられたとき」が追加された(スコアシート記入法参照)。  
※合図器具を鳴らして審判に知らせなければならない。

### (4) スコアシート記入法

- ①スコアシートを記入するペンの色が、第1ピリオドと第3ピリオドは**赤色**、第2ピリオドと第4ピリオド(延長時限を含む)は**黒色**に変更された。  
※あらかじめスコアシートに記入しておくチーム・メンバーの氏名・番号、コーチやアシスタント・コーチの氏名、およびスコアシートの最上部に関すること、それぞれのサインは、すべて**黒色**で記入する。  
※ゲームの最初に出場する5人のプレイヤーの×印は**黒色**で記入し、ゲームの開始時に囲む○印は**赤色**で記入する。  
※ゲーム終了後にスコアシートをしめるときは、すべて**黒色**で記入する。  
※新しい競技規則書に二色印刷で例示されているので、詳細は競技規則書を参照すること。  
※プレイヤーに2回目のアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられて失格・退場になったときは、残りのすべての枠に“D”を記入する。

U <sub>2</sub>	P	U <sub>2</sub>	D	D
----------------	---	----------------	---	---

※コーチに2回目の“C”が記録されて失格・退場となったときは、残りの枠に“D”を記入する。

コーチ	C <sub>2</sub>	C <sub>2</sub>	D
A・コーチ			

- ③第1、第2、第3ピリオドが終わったとき、ファウルの欄で**そのピリオドに記入したファウルの記号だけを太い線で囲む**ことになった(コーチ、アシスタント・コーチの欄も同様にする)。この線は**それぞれのピリオドで使用した色で記入する**。

## 2. タイムキーパー

①タイムキーパーが合図器具を鳴らして時間の経過を知らせる時機に、「第1ピリオドおよび第3ピリオドの始まる3分前と1分30秒前」、「チャージド・タイム・アウトが終わったとき（チャージド・タイム・アウトをはかり始めてから60秒が経過したとき）」が追加された。

※タイムキーパーは、次のときに合図器具を鳴らして時間の経過を知らせる。

- A. 第1ピリオドと第3ピリオドの開始3分前
- B. 第1ピリオドと第3ピリオドの開始1分30秒前
- C. 第2ピリオド、第4ピリオド、各延長時限の開始30秒前
- D. 各ピリオド、延長時限の競技時間が終了したとき
- E. 審判がチャージド・タイム・アウトを宣してから50秒が経過したとき
- F. 審判がチャージド・タイム・アウトを宣してから60秒が経過したとき  
(チャージド・タイム・アウトが認められたときは、タイムキーパーが2回目(60秒)の合図をするまではゲームを再開しないことになった)

## 4. 24秒オペレーター

①ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき、それまでボールをコントロールしていたチームに引きつづきスロー・インのボールが与えられる場合も、24秒の残り時間を継続してはかることになった。

※24秒が継続されるケースが増えたので、24秒オペレーターは、審判の笛が鳴ったとき24秒計をすぐにはリセットせず、まずストップし、状況をよく判断してそのあとの操作を正しく行わなければならない。

②24秒の合図が鳴っても審判がその合図を無視してそのままゲームをつづけさせたときは、24秒オペレーターは、すみやかに24秒計をリセットし、どちらかのチームがボールをコントロールしているときはその時点から、どちらのチームもボールをコントロールしていないときは次にどちらかのチームがボールをコントロールした時点から、すみやかにあらたな24秒をはかり始めなければならない。

※審判が24秒の合図に気がつかなかったり、24秒が経過したのに24秒の合図が鳴らなかつたり鳴らしそこなつたりしたときは除く。

# ツー・パーソン・マニュアルの主な変更点

## 2. ゲーム前の準備

### 2. 2 ゲーム前の話し合い（プレーゲーム・カンファレンス：Pre-Game Conference）

1. ゲーム中に行うべき任務などの打ち合わせをする。審判は、個人ではなくオフィシャル・チームとしてゲームに臨むのであるから、緊密な協力ができるようにあらゆる準備をしておく必要がある。

2. ゲーム前の話し合い（プレーゲーム・カンファレンス）はもっとも重要である。

### 2. 4. 2 ウォーム・アップとスコアシートへのサイン

1. 審判は、オフィシャルズ・テーブルの反対側（オポジット・サイド）に位置し、両チームのウォーム・アップを見守る。

### 2. 4. 3 ゲーム開始前の合図

1. 主審は、笛を鳴らしてゲーム開始3分前の合図をする（図13）。

2. 主審は、ゲーム開始1分30秒前に笛を鳴らして、両チームのプレイヤーがウォーム・アップをやめてチーム・ベンチにもどるように指示する。

3. 主審は、ハーフ・タイムにも、後半開始3分前および1分30秒前に笛を鳴らして合図をする。同様に、第2ピリオド、第4ピリオド、各延長時限の前のインタヴァルにも、ピリオド開始30秒前に笛を鳴らして合図をする。

## 3. ゲームの開始

### 3. 1 ジャンプ・ボールの前に

6. 主審は、ジャンプ・ボールをさせるためにボールをトス・アップするときにも、規則違反が起こったときにただちに笛を鳴らせるように、笛をくわえておくようにしなければならない。

### 3. 4 第1ピリオド以外のピリオドの開始

1. 第1ピリオド以外の各ピリオド（各延長時限を含む）は、前のピリオドが終了したときにオルタネイティング・ポゼッション・ルールのスロー・インのボールが与えられることになっているチームによるスロー・インで始める。

2. 主審は、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインのアウト・オブ・バウンズに立ち、ピリオド開始の準備ができるのを待つ。

## 4. 審判の位置取りと責任範囲

### 4. 5 トレイル・オフィシャルへの注意事項（まとめ）

7. 8秒ルールの8秒が場合により継続されることになったので、そのようなときは、バック・コートのアウト・オブ・バウンズから行われるスロー・インの際に、残りの秒数を両チームのプレイヤーに知らせる。

## 7. 審判の位置取りと責任範囲

### 7. 4 ファウルあとのスイッチ

ファウルの判定のあとは、両審判は、原則としてコート上の位置を交換する。

ただし、次の場合は、コート上の位置を交換しない。

1. リード・オフィシャルがオフレンジ・ファウルを宣したとき

ファウルを宣したリード・オフィシャルは、スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあとあらたにトレイル・オ

フィシャルになる。

トレイル・オフィシャルは、反対側のコートのエンド・ラインに入り、あらたにリード・オフィシャルになる。

2. **トレイル・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣したとき**（7. 8. 1、7. 9. 2参照）  
ファウルを宣したトレイル・オフィシャルは、スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあと、引きつづきそのコートでトレイル・オフィシャルになる。  
リード・オフィシャルは、引きつづきエンド・ラインでリード・オフィシャルの位置取りをする。

## **8. フリースロー**

### **8. 1 トレイル・オフィシャルの任務**

1. ファウルを宣した審判がスコアキーパーへの伝達を終えたのち、両審判はたがいに位置を交換し、あらたにトレイル・オフィシャルになった審判は、フリースロー・シューターの左側でフリースロー・ラインとスリー・ポイント・ラインが交わるところに立つ。
2. リード・オフィシャルがプレイヤーにフリースローの数を示したのち、トレイル・オフィシャルは、腕を上げてフリースローの数を示す合図（審判の合図56、57、58）をボールがフリースロー・シューターの手から離れるまで出しつづける。

### **8. 2 リード・オフィシャルの任務**

1. リード・オフィシャルは、トレイル・オフィシャルと対角線上の制限区域の外に立ち、すべてのフリースローのボールをフリースロー・シューターに与え、フリースローをさせる。
2. 制限区域に沿ってリバウンドの位置を占めているプレイヤーの人数と位置を確認したのち、制限区域に踏み込む前に、オフィシャルズ・テーブルを見てチャージド・タイム・アウトや交代がないことを確認する。
3. そののち、制限区域に踏み込み、フリースローの数を示してから、1投目のフリースローのボールをフリースロー・シューターにバウンス・パスでフリースローのボールを与える。
4. フリースロー・シューターにフリースローのボールを与えたあとは、リード・オフィシャルは、エンド・ラインの外で、制限区域を区画するラインの延長線をまたいで立つ。
5. あとにフリースローがつづく場合は、リード・オフィシャルは、ショットされたボールを拾い、制限区域内で残りのフリースローの数（1個、2個）を示し（審判の合図54、55）、フリースロー・シューターにバウンス・パスでフリースローのボールを与える。

### **8. 3 制限区域に沿ったリバウンドの位置にプレイヤーが並ばないフリースロー**

3. テクニカル・ファウル、アンスポーツマンライク・ファウル、ディスクォリファイング・ファウルの罰則によるフリースローは、すべてファウルを宣した審判の相手審判がフリースロー・シューターにボールを与えてフリースローをさせる。
4. ファウルを宣した審判は、フリースローが終わったのちすみやかにスロー・インをさせられるように、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインのアウト・オブ・バウンズに立つ。スロー・インをするプレイヤーは、センター・ラインをまたいで立ち、コート内のどこにいるプレイヤーにパスしてもよい。

## **9. チャージド・タイム・アウトと交代**

### **9. 1 チャージド・タイム・アウト**

3. チャージド・タイム・アウトの間、両審判は、図に示されているように、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのフリースローの半円の外側で、フリースロー・ラインの延長線をまたいで立ち、それぞれのチーム・ベンチに向かい合うように位置する。このとき、ゲームを再開するスロー・インやフリースローのボールをプレイヤーに与える審判がボールを持ち（あるいはボールを自分の足元に置き）、チャージド・タイム・アウトが終わるのを待つ。  
両審判は、チャージド・タイム・アウトの間、それぞれ両チームのプレイヤー、交代要員、コーチを見守り、なおかつ必要があるときはテーブル・オフィシャルズとアイ・コンタクトをとるようにする。